国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和８年１１月２０日
小　樽　開　発　建　設　部

小樽開発建設部総合評価審査委員会の審議概要について

～第４１回総合評価審査委員会を開催しました～

令和８年９月１７日に第４１回小樽開発建設部総合評価審査委員会を開催しましたので、審議概要について別紙のとおりお知らせいたします。

小樽開発建設部は、発注する工事の技術提案に対し、中立かつ公平な審査・評価を確保するため、学識経験者から意見を徴収することを目的として、小樽開発建設部総合評価審査委員会を設置しております。

今回の委員会では、令和７年１０月１日から令和８年３月３１日までに契約した工事２０件、業務２件が対象となり、そのうち４件を抽出して審議が行われました。

（対象工事）

・一般国道 229 号　島牧村　新穴澗トンネル工事
・石狩湾新港　－１２ｍ岸壁工事
・一般国道５号　仁木町　銀山大橋上部北工事
　銀山大橋上部中央工事
　銀山大橋上部南工事
　（一括審査方式）

（対象業務）

・一般国道５号　仁木町　仁木工事計画検討業務

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】　国土交通省　北海道開発局　小樽開発建設部
技術管理課　課長　　名古屋　幸人（電話 0134-23-8305）
技術管理課　課長補佐　中井　博昭　（電話 0134-23-8305）
（小樽開発建設部ホームページ）　https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/

第４１回　小樽開発建設部総合評価審査委員会　審議概要

開催日・場所	令和８年９月１７日（木）　小樽開発建設部　第１会議室
委　員　長	江頭　進（小樽商科大学　学長）
委　　員	八木　宏樹（小樽商科大学　名誉教授） 山本　泰司（北海道科学大学工学部都市環境学科　教授） 吉井　稔雄（北海道大学公共政策大学院　公共政策学連携研究部　教授） （五十音順）
議　　事	工事、業務の審査について ① 一般国道 229 号　島牧村　新穴澗トンネル工事 ② 石狩湾新港　－１２m岸壁工事 ③ 一般国道５号　仁木町　銀山大橋上部北工事、銀山大橋上部中央工事、銀山大橋上部南工事 ④ 一般国道５号　仁木町　仁木工事計画検討業務

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
令和７年１０月１日から令和８年３月３１日までに契約した工事・業務の中から抽出された計４件について、工事等概要説明及び審議を行った。なお、山本委員は、開催日当日は欠席のため個別に審議を行った。(以下、入札参加者の提案またはその評価に係わる内容は、技術提案に関する機密保持の観点から記載していない。)	
○　一般国道 229 号　島牧村　新穴澗トンネル工事	
意見・質問	説明・回答
・書類作成に慣れた経験豊富な者が、落札し続けることにならないか。 ・審査項目に企業の評価は行わないのか。 ・省力化施工試行工事 SI 型の落札実績による評価とは何か。	・総合評価落札方式のため、落札決定には入札金額も影響します。 ・WTO 工事Ｓ型のため、企業に関する評価項目はワークライフバランス及び賃上げ実施表明のみです。 ・技術の活用・発展を促すため、当該試行工事の落札実績を有さない企業を加点対象としています。
○　石狩湾新港　－１２m岸壁工事	
意見・質問	説明・回答
・作業船を保有していない者が落札することはありえるか。 ・賃上げ表明について、何%以上であれば評価されるのか。	・総合評価においては、作業船を保有しているだけでは加点とはならず、当該工事で使用する場合に評価されます。そのため、作業船を保有していない者が落札することもあり得ます。 ・大企業では３%以上、中小企業等では１．５%以上です。

○　一般国道５号　仁木町　銀山大橋上部北工事、銀山大橋上部中央工事、銀山大橋上部南工事	
意見・質問	説明・回答
・技術提案書から技術の有無をどのように審査するのか。 ・ワークライフバランスの評価を受けるには何か資料が必要か。	・技術提案書の内容について、技術審査の評価項目に基づき審査・評価しています。 ・ユースエール等の認定を受けていることが分かる資料が必要です。
○　一般国道５号　仁木町　仁木工事計画検討業務	
意見・質問	説明・回答
・評価値の出し方はどのように行っているか。 ・賃上げ実施表明に関する評価について、いつまで続けるのか。	・技術評価点と価格評価点を合算して算出しています。 ・現時点では未定です。
【　総　括　】	
・本日審査の４件について、評価の中身について異論はなく、適正な評価と判断する。 ・総合評価方式の審査に関する今後の課題は以下の通り。 ・審査書類について、募集要領等をもとに AI で提出資料が作成されると、従来の審査方法での技術評価は難しくなると見込まれるのでそれに対応する仕組み作りが必要。 ・賃上げの実施表明に関する評価について、国際化を見据えた評価方法の検討が必要。 以上	